

第 36 回生物学技術研究会への参加報告

フィールド科学系部門生物科学班 塩路 恒生

1. はじめに (目的)

生物学の研究に携わる大学及び研究機関等の技術職員が日常関わっている研究支援活動における成果や問題点の発表を聴講し、技術の向上、交流及び情報交換を図ること、さらには、自らの業務の成果を発表することを目的としてオンサイトにて参加した。

2. 期間・場所

期間：令和 7 年 2 月 20～21 日 2 日間

場所：オンサイト及びオンライン開催

3. 参加者等

受講者：全国の技術系職員 オンサイト 130 名、オンライン 86 名

4. 研修内容

- 1 日目 ・研修講演「トランスレーション・リサーチにおける実験モデルウサギ」
動物資源共同利用研究センター センター長 西島 和俊 教授
- ・ポスター発表 37 件
- 2 日目 ・一般口演 10 件
- ・奨励研究採択課題技術シンポジウム 5 件

5. まとめと感想

今回も、昨年に引き続き、オンサイトとオンラインのハイブリッド開催であったが、オンサイトにも多数参加があり、活発な意見交換が行われた。

私は、2019 年から地域や中学校と共に活動している絶滅危惧植物のミコシギクの保全活動の取り組みについて、これまでのまとめとしてポスター発表を行った。この活動は、広島大学地域応援プロジェクトに採択されたものであり、来年度も継続して申請を行う予定である。発表では、活動における調査方法のあり方などについて、他大学の方から貴重なアドバイスを受けることが出来て、今後の活動に非常に参考になった。

他の発表は、幅広く多岐にわたる分野であったが、今年は、動物実験に関する報告も多く見受けられた。どの発表においても、業務に取り組むにあたり、創意工夫されていることが伝わる内容で、参考になる部分が多かった。

多くの方の挨拶でも言われていたように、技術職員のつながりは非常に大切であることを改めて実感することの出来た研究会でもあった。